

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 学 - 15
-----------------	-------------

平成 15 年度配分 研究成果の概要

研究名	「テイスト」の創出に関する基礎研究 —ものづくりを通して大学から社会への創造的な情報発信を試みる				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費 1,500千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	川口宗敏	デザインの領域におけるテイストの創造とその流通に関する研究
共同研究者	文化政策学部	芸術文化学科	助教授	荒川裕子	美術館・博物館等におけるオリジナル・グッズの開発とその効果に関する調査・研究、および会計担当
	文化政策学部	芸術文化学科	講師	谷川眞美	現代美術のフィールドにおけるアート作品や関連商品の市場に関する調査・研究
発表の方法 (予定で可)	1 紀要: 静岡文化芸術大学研究紀要			号数	第5号 (平成17年3月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:			発表日 (発表予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

大学という教育・研究機関から、社会に向けて情報を発信する方法としては、例えばシンポジウムや講演、公開講座や書籍の刊行といったかたちで、学術研究の成果を公開することが一般的である。それに対して本研究では、「ものづくり」をひとつの基本理念として掲げている本学の特質を活かし、具体的なデザインやかたちを通じて、社会との創造的な繋がりを構築していく方法を考える。

より具体的には、本学独自の美的感性、すなわち静岡文化芸術大学としての「テイスト」を創出し、これを何らかの明確なかたち(教員や学生の作品、オリジナル・グッズ等々)を介して社会に広く伝えていくことを提案する。そのためにまず、「テイスト」や「ブランド」の機能や仕組みについて調査・研究を行ったうえで、新たな美的価値を形成・発信していく道筋について探求する。

(研究の実施方法等)

美術館・博物館をはじめとする文化施設においても、近年、文化や芸術の提供のしかたが大きく変化している。従来のように施設の内部のみで完結するのではなく、文具や生活雑貨、アート作品のレプリカといった具体的な「もの」を通して、施設のコンセプトを広く外部にも伝える方法が試みられている。従って本研究ではまず、独自のグッズ開発等を積極的に推し進めている文化施設(福岡アジア美術館、森アートセンター、大原美術館等)を実際に調査し、その有効性や問題点を分析する。

これらの成果を土台として、静岡文化芸術大学という研究・教育機関から発信するのにふさわしい「テイスト」とはなにか、また、ものづくりを通しての情報発信が、果たして大学を基盤とした産業の一形態として成立しうるかどうかについて検討を加える。

(得られた成果等)

上述のような調査・研究を踏まえたうえで、大学という場からの「テイスト」の発信の方法についてより具体的に検討するために、浜松市役所や地元企業のメンバーを加えた研究会を開催し、議論を重ねてきた。その成果の一部として、浜松という地域の特性を活かした「テイスト」の創出のありかたを提示することを目的に、新たな執筆者を加えて、「はままつ街論」と題した記事を静岡新聞紙上においてリレー方式で発表してきた。

また、本学研究紀要にて発表予定の論文において、「ものづくり」という具体的な営みを通じて社会とコミュニケーションする経路の構築と、併せて大学を基盤とした新しい産業創生の可能性についても考察し、今後さらに、SUACというブランドを具現化していくための「ものづくり」の実現に向けて提言を行う。